Ａ－５　総合的な学習の時間と他教科との関連について

（１）「総合的な学習の時間」の学習活動と教科学習

「学習指導要領解説　総則編」によれば、「各教科等で身に付けられた知識や技能等を相互に関連付け、深め、総合的に働くようにすることを目指す」とある。生徒が各教科で学んだ基礎的・基本的知識・技能を「総合的な学習の時間」の中で能動的な力として生かすことができれば、それは「生きた学力」となって生徒に根付いていくきっかけとなっていくだろうし、教科学習の充実にもつながっていくであろう。よって両者の立場やねらいを押さえた上で、効果的に関連しあうあり方と、効果的に関連しあった中で育まれた生徒の姿を、明確なゴールイメージとして描いておく必要があると考える。

本校では、以上の点に留意し、以下の２点での関連を図っている。

①各教科の基礎的な力が求められる場での関連

②「総合的な学習の時間」に行われる体験活動と教科学習との関連

（次項：「往還プログラム」の実施」）

（２）「往還プログラム」の実施

本校では、教育活動内で行われる体験活動の価値を高めたり、意味を深めたりしていくために、体験活動と学習との『往還プログラムを』実施している。体験と学習とは互いに長短を持っており、両者のスパイラルな展開によって相補いあい、相支え合うことができるからである（図１）。本校では、体験と学習とを循環させることで、生徒が得られる学びの質が高まるのではないかという仮説のもと、図２のような往還プログラムを作成し、その有効性の検証を試みている。

「総合的な学習の時間」の中で行われる体験活動についても同様であり、体験活動が単発で終わることがないように、体験活動の連続性と教科・道徳・特別活動との効果的な関連を図りながら取り組んでいる。

（図１）学習と体験の循環イメージ

＜学習の特質＞

○一般化・普遍化されていく。
○永続性を持ち、より確かなものとなる。
○内面的（深層的）なものになる

←

→

＜体験の問題点＞

・個別的傾向が強い。
・一般的偶発的傾向が強い。
・表面的（表層的）傾向が強い。

↓　↑　　↑　↓

＜学習の問題点＞

・観念的な分かりに止まりやすい。
・抽象化・理想化されやすい。
・分析的・局部的になりやすい

→

←

＜体験の特質＞

○実感の伴う胸に落ちるわかりへと深まる。
○より具体化されていく。
○総合的・大局的になる。

「豊かな体験活動推進事業調査研究検討委員会　中間報告会」（平成１８年３月２０日）
淑徳大学名誉教授　新宮弘識先生の資料より

（図２）　本校における「往還プログラム」のとらえ

体験活動	生徒に与える体験活動	①知る体験活動	・内容を広く理解することをねらいとする。
		②気づく体験活動	・目的をもって直接その事象と接することで、生徒自身に「気づき」が生まれることをねらいとする。
	生徒がつくる体験活動	③深める体験活動	・これまでの学びで得た価値や観念を行為に結びつけていくことをねらいとする。体験の経験化に向けたプロセスとする。
		④広がる体験活動	・学びの成果を事後の実践につなげることをねらいとする。体験の経験化に向けたプロセスとする。

体験活動で得られる価値や意味を高めたり、深めたりしていくために、各教科や道徳・特別活動で補完していく。

各教科	知る学習	・体験活動の価値を高めるために、事前に押さえておきたい知識や、事後の活動を補完する知識を身につけるために行う学習。体験学習を知識理解面で補完する。
	支持的な学級風土作りの支援	・生徒の授業の関わり方や発言の仕方・対応などで、お互いに認め合うことのできる雰囲気作りを意識し、支援していく。

道徳	**体験活動への人間的な揺さぶりをする道徳（体験前）** 体験活動の前に行い、倫理的な課題に対して心を耕すことをねらいとする。
	体験活動を基盤とした道徳（体験後） 共通の体験活動をした後に、体験活動の意味や価値が高まったり、深まったりすることをねらいとする。仮に問題場面があった場合にはこれを乗り越えさせ、体験が豊かなものに昇華するようにしていく。また、一定の体験活動が終了したときに、自分の活動を客観視し、自己の倫理的な価値観を深め広げ、再構築させるために行う。

特別活動	他を認め合える望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことをねらいとする。	
	学級活動	学級や学校の生活の充実と向上に関することや個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関する視点で体験活動を補完していく。支持的な学級風土を育成する。
	学校行事 生徒会活動	活動へのよりよい参加の在り方や、学校生活を充実させ改善向上を図る視点で、体験活動を補完していく。

これは平成１７・１８年度に文部科学省の委託事業「豊かな体験活動推進事業・命の大切さを学ばせる体験活動に関する調査研究」の指定研究を行った際に、本校で開発・実践したものである。平成１９年度は、この手法を「総合的な学習の時間」をはじめとする学校の教育活動内で行われる体験活動に広く応用していく。それによって昨年度までの研究で確認された有効性に更に厚みをつけていきたい。